

No.24

2005年1月発行

淀川水系 流域委員会 猪名川部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第24回猪名川部会の内容…………… P. 1
- 第24回猪名川部会の説明資料より抜粋…………… P. 3
- 配付資料リスト…………… P. 7
- 猪名川部会 委員リスト…………… P. 8
- これまで開催された会議等について…………… P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付…………… P. 10

平成16年12月3日（金）、第24回猪名川部会が開かれました。



【天満研修センターにて】

第24回猪名川部会の内容

余野川ダムの調査検討について、資料1-1「ダムの調査検討について」を用いて説明がなされた後、委員との意見交換が行われました。

第24回猪名川部会結果報告

庶務作成

開催日時：2004年12月3日（金） 14：00～17：10

場 所：天満研修センター 9階 イベントホール

参加者数：委員10名、河川管理者12名、一般傍聴者107名

1. 審議の概要

①余野川ダムの調査検討に関する報告と意見交換

余野川ダムの調査検討について、河川管理者より資料1-1「ダムの調査検討について」を用いた説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。

○開削案を提示したことについて

- ・第8回ダムWGで提出された案と異なっている。
←昭和58年9月洪水および総合治水対策目標洪水の両方をクリアできる対策案を提示した。（河川管理者）
- ・これまで開削しないことを前提に検討してきた。今回の報告により開削案が示されたが、河道掘削の規模が大きく、とまどっている。
- ・かつて、河川管理者は開削案を環境への影響を理由に却下したという経緯がある。方向転換する際は、自然環境等に対する危惧があり、検討して欲しい。
- ・一庫ダムには農業用の不特定用水があるが、農業の実態が変化している。実態について調べていただいていると思うが、どの程度までわかっているのか。
←農業用水については、一度取水量の調査を実施したが、利用状況については調査していききたい。（河川管理者）
- ・開削での解決は安易ではないか。流域対応も視野にさらなる検討を続けて欲しい。
←開削により下流に影響が生じるので対策を要すると認識している。流域対応も重要と考えている。（河川管理者）
- ・河川の中での対策以外に、森林の保水力の活用など、河川の外の対策も含めて検討して欲しい。
- ・多田神社周辺は橋脚が多いこと、市民の親水空間にもなっていること等にも配慮した検討をお願いする。

○開削案の内容について

- ・資料の開削部の横断図だけでは掘削の具体的な姿がわかりにくい。開削によって景観がどう変わるかという図面はあるか。
←詳細は今後の検討となる。景観にも配慮する。（河川管理者）
- ・資料によると、戸の内地区では開削後に河床掘削を施しても越水してしまうが、そもそも開削案をとらない場合も破堤するのか。
←開削しない場合も氾濫する。また、資料を提出したい。（河川管理者）
- ・余野川ダムの残りの事業費が290億円であるのに対し、河床の掘削は260億円ですみ、30億円

コストを低く抑えられるとされているが、河床掘削費用の根拠を示して欲しい。

←個別にかかる費用を積み上げて今回の数字となっている。（河川管理者）

- ・下流から上流の整備に、工期はどの程度かかるのか。
←堤防強化を優先していくが、概ね10ヵ年で可能ではないか。
- ・掘削は260億円ですみ、ダムの残りの事業費290億円と比べてコストが小さいとされているが、下流対策のために結局余野川ダムを作る必要があるのであれば、比較の考え方が変わってくるのではないか。

○検討対象洪水について

- ・既往第2位の昭和58年9月洪水をクリアすればよし、とするのは安易ではないか。
←既往第1位が降雨量、降雨パターンともに特異な降雨であることから既往第2位以下を検討対象とした。第1位を目標とすると、ダム建設、開削とすべて実施しても不十分で、流域委員会も目標とするのはどうかという意見であった。（河川管理者）
- ・対象洪水が第1位から第2位に変更したことについて部会としてどのような意見を持っているか。

○今後の展望について

- ・この案で今回の目標はクリアできたとして、さらに大きい降雨が来たらどう対応するか。
←今回は開削に焦点をあてて検討した。ここに示されているもの以外の上流対策、下流対策は引き続き検討する。（河川管理者）
- ・猪名川部会として余野川ダムは建設しない、という結論でよろしいか。
←銀橋の上流に対しては開削で対応可能ということ。下流に対しては、河床掘削に加え、余野川ダムも効果はあるが、他にも検討したい。（河川管理者）

2. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・銀橋の上流に対しては開削に効果が認められる、という案はいずれ出てくると思っていた。今回は、これに加えて、開削により影響が生じる下流に対しては余野川ダムが効果あり、という資料が提出されている。雨の降り方によっては、戸の内地区では現状よりひどい結果となる可能性があり、これで解決したと安易に考えるべきではない。

以上

第24回猪名川部会の資料より抜粋

第24回猪名川部会では、資料1-1「ダム の 調査検討について」を用いて、余野川ダムの調査検討について河川管理者より説明がありました。以下に資料より一部を抜粋して掲載いたします。

■資料1-1より（抜粋）
ダム の 調査検討について（余野川ダム）

1. 猪名川狭窄部上流の浸水被害対策
1.1 目標洪水

猪名川における既往洪水の中で浸水想定被害および銀橋地点流量が最大となる昭和35年8月洪水は降雨量・降雨パターンともに特異な降雨であることから、既往第2位以下の洪水を検討対象洪水としました。猪名川流域の代表的な洪水は表-1の通りであり、この中で銀橋地点現況計算ピーク流量が第2位である昭和58年9月洪水を目標洪水とします。

また、現在狭窄部上流にて事業実施中である総合治水対策における目標洪水（昭和28年9月洪水の1.044倍）に対しても浸水被害が軽減するよう併せて検討を行います。

表-1 猪名川流域の代表的な洪水*1

洪水名	小戸地点流域 平均日雨量 (mm/日)	①銀橋地点 現況計算ピーク流量		②銀橋地点 計算ピーク流量		③狭窄部上流 浸水想定被害額 (億円)
		流量 (m³/s)	順位	流量 (m³/s)	順位	
S28.9	148.3	842	4	1,489	3	1
S34.9	133.8	591	9	1,235	5	0
S35.8	374.6	1,628	1	2,006	1	633
S36.6	95.1	575	10	888	10	0
S42.7	182.0	875	3	1,221	6	1
S43.8	96.6	531	11	636	11	0
S47.7	166.1	671	6	1,051	7	0
S47.9	142.9	659	7	1,242	4	0
S58.9	136.0	1,015	2	1,539	2	71
H1.9	142.0	642	8	960	8	0
H11.6	165.3	698	5	933	9	0
総合治水*2	154.8	1,017	—	—	—	45
各洪水の降雨は当時の降雨量および降雨波形を再現		・河道および流域の土地利用は現況の整備状態で設定 ・一庫ダムの操作は現行操作（150m³/s一定量放流）で設定		・河道は全て改修された（氾濫させない）状態で流域の土地利用は現況の整備状態で設定 ・一庫ダムはない状態で設定		①で既往洪水が再来した場合を想定した氾濫シミュレーション結果 ・破堤条件：堤防がある箇所では「堤防天端—余裕高」で破堤。堤防がない箇所は溢水。

*1 戦後、猪名川流域で浸水被害が記録された代表的な洪水
*2 総合治水対策（S58策定）の対象洪水：昭和28年9月洪水の1.044倍

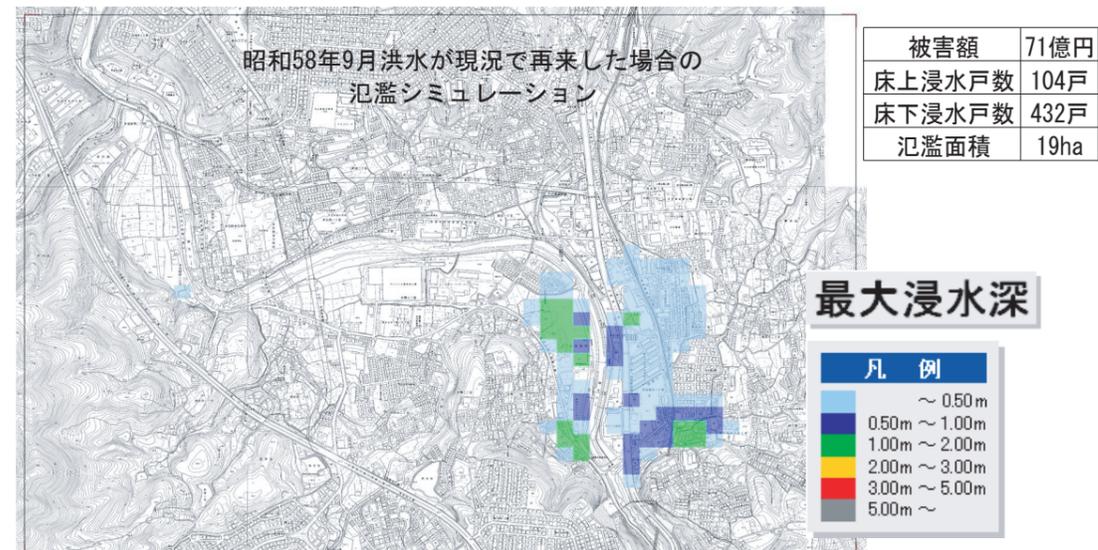


図-1 昭和58年9月洪水の氾濫シミュレーション図

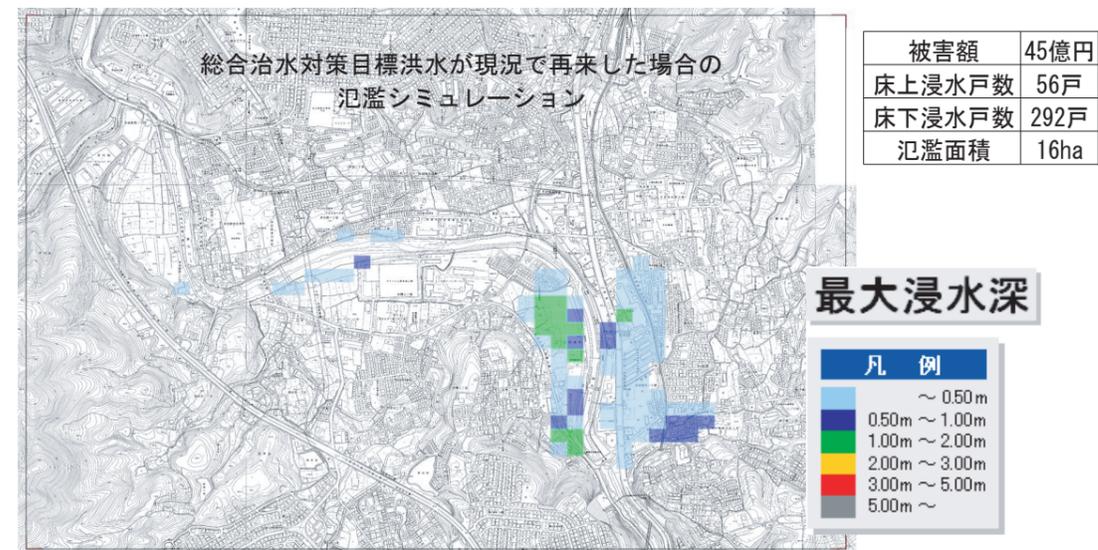


図-2 総合治水対策目標洪水（昭和28年9月洪水の1.044倍）の氾濫シミュレーション図

1. 2 狭窄部上流の浸水被害対策の検討

- (1) 狭窄部上流の浸水被害対策の考え方
- (2) 有効な対策案(組合せ)の決定

昭和58年9月洪水、総合治水対策目標洪水の両洪水を満足させるには下記(表-2)のとおりとなりました。

表-2 総合治水対策目標洪水および昭和58年9月洪水に対して有効な対策(組合せ)

対策の組合せ	一庫ダム容量増分	銀橋地点計算ピーク流量		総事業費
		総合治水洪水	S58.9洪水	
現況(対策前)	—	1,017m ³ /s	1,015m ³ /s	—
「新たな遊水地案」 「一庫ダムの嵩上げ(10m)」 →一庫ダム洪水調節容量1,520万m ³ 増 「一庫ダムの放流操作の変更(80m ³ /s放流)」	1,520万m ³	755m ³ /s = 880m ³ /s	880m ³ /s < 880m ³ /s	1,170億円

1. 3 狭窄部開削の検討

前述に示すとおり、狭窄部上流の対策で目標洪水である総合治水対策対象洪水および昭和58年9月洪水の浸水被害を解消するためには事業費が約1,170億円と高額となります。また、一庫ダムの嵩上げ(10m)は、技術的にただちに実施可能と判断できないため、狭窄部上流の浸水被害対策の一案として狭窄部の開削とその下流へ与える影響の検討を行いました。

(1) 狭窄部開削による多田地区への効果

①狭窄部開削の考え方

目標洪水である昭和58年9月洪水および総合治水目標洪水に対して浸水被害を解消する狭窄部の流量を設定します。

検討の結果、一庫ダムの放流操作を現行操作の150m³/s一定量放流から220m³/s一定量放流に変更することで一庫ダムの容量不足は解消され、220m³/s一定量放流のときは銀橋地点計算ピーク流量は総合治水目標洪水では910m³/s、昭和58年9月洪水では1,085m³/sとなり、狭窄部の流下能力を約1,100m³/s確保すれば両洪水の浸水被害は解消できることとなります。

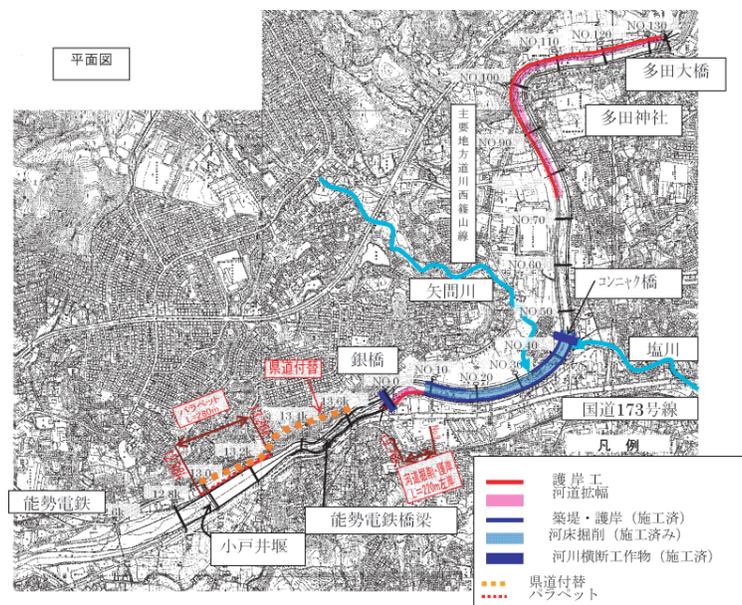


図-9 狭窄部開削概要図

(2) 狭窄部開削による猪名川下流部への影響

狭窄部の開削によって目標洪水(昭和58年9月洪水および総合治水目標洪水(S28.9×1.044))における浸水被害は解消できるものの、狭窄部の下流に対しては開削による水位上昇が考えられます。ここでは目標洪水における開削の影響(水位増)と併せて、目標洪水を越える洪水における開削の影響(水位増)についても検討を行いました。

猪名川下流部への影響の考え方としては、開削による影響(水位増)が「堤防天端一余裕高」水位以上の水位上昇分を検討対象とします。

①計算条件

②計算結果

開削による水位増は以下の表-7に示す通りで、計算結果より各区間での水位増の最大値を抽出しました。

表-7 開削による水位増計算結果

河川名	区間	水位増(最大値)
猪名川	猪名川直轄上流付近 12.6k~10.4k	0.099m
	猪名川中流部 10.4k~5.4k	0.082m
	猪名川下流部 5.4k~0.0k	0.180m
藻川	4.4k~0.0k	0.179m
中島・神崎川	猪名川合流~河口	0.127m

(3) 猪名川下流部への影響対策

前述の結果のとおり、狭窄部上流の浸水被害対策として最も経済的な「狭窄部の開削(1,100m³/s対応)」および「一庫ダムの放流操作の変更(220m³/s)」を実施した場合、狭窄部下流に影響(水位増)をもたらす結果となりました。したがって、これらの対策と併せて、影響(水位増)を解消するための対策が必要となります。影響(水位増)を解消するための対策としては河道内で対応する方法と貯留施設により対応する方法があり、本検討では河道内で対応する方法として「河床掘削案」、貯留施設により対応する方法として「余野川ダム案」について検討しました。

表-8 河床掘削結果

	猪名川							藻川
	0.0~2.6k	2.6~5.4k	5.4~7.4k	7.4~8.8k	8.8~9.8k	9.8~10.4k	10.4~12.6k	0.0~4.4k
開削前後最大水位差(m) (対象洪水)	0.177 (S42×1.2)	0.180 (S42×1.2)	0.082 (S42×1.8)	0.080 (S42×1.8)	0.064 (S42×1.8)	—	0.099 (S42×1.8)	0.179 (S42×1.2)
低水敷掘削深(m)	0.00~1.32	0.65~1.65	0.00~0.70	井堰改築	井堰改築	—	井堰改築	0.00~2.14
高水敷掘削深(m)	—	—	0.00~1.88	0.00~0.70	—	—	—	—

* 対策区間の分割

河床設定に影響する構造物(堰)および河道が大きく変化する地点(分派点)で対策区間を分割します。

* 河床勾配の設定

各対策区間は同一勾配とし、下流から上流へ逆勾配にならないように設定します。

配付資料リスト

●第24回猪名川部会 配付資料

資料リスト		資料請求 No
議事次第		i24-A
資料1-1	ダムの調査検討について（余野川ダム） ※第9回ダムWG (H16. 12. 1) 河川管理者提供資料	i24-B
資料1-2	河川整備計画基礎案に係る事業進捗等についての委員からの意見	i24-C
資料2-1	住民対話討論会の結果報告について ※第9回ダムWG (H16. 12. 1) 河川管理者提供資料	i24-D
資料2-2	委員会における今後のスケジュール	i24-E
参考資料1	委員および一般からのご意見	i24-F
	「豊かで安全な猪名川を目指してすすめています」 ー淀川水系河川整備計画<基礎案>の進捗状況ー（河川管理者提供資料）	—

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP. 10の「配付資料及び意見書の閲覧・入手方法」をご覧ください。

猪名川部会 委員リスト

2004. 12. 2現在
(五十音順、敬称略)

NO.	氏名	対象分野	所属等	備考（兼任）
1	池淵 周一 (利水部会長)	水資源（水文学、水資源工学）	京都大学防災研究所 教授	治水部会 利水部会
2	田中 哲夫	漁業関係（魚類生態学）	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 助教授	環境・利用部会
3	畑 武志	農業関係	神戸大学農学部 教授	住民参加部会
4	服部 保	植物（植物生態学）	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	環境・利用部会
5	畚野 剛	地域の特性に詳しい委員	川西自然教室 代表	治水部会
6	細川 ゆう子	地域の特性に詳しい委員 (住民運動)	猪名川の自然と文化を守る会	環境・利用部会 利水部会
7	本多 孝	地域の特性に詳しい委員 (環境教育、人と自然のかかわり)	みのお山自然の会 会長	住民参加部会
8	松本 馨	地域の特性に詳しい委員 (地域自然保護活動、淡水生物調査、 環境（自然保護）教育)	池田・人と自然の会 代表	住民参加部会
9	森下 郁子	動物	大阪産業大学 人間環境学部 教授	治水部会
10	矢野 洋	水質	神戸市水道局技術部調査役	環境・利用部会
11	米山 俊直 (猪名川部会長)	水文化	京都大学 名誉教授 国際京都学協会 理事長	住民参加部会

●猪名川部会以外の参加委員

No.	氏名	対象分野	所属等	備考（兼任）
1	山本 範子	地域の特性に詳しい委員	流域住民	淀川部会 環境・利用部会 治水部会

注：対象分野欄の（ ）は委員の専門を示しています。

これまで開催された会議等について

第24回猪名川部会（平成16年12月3日）までに、以下の会議が開催されています。

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会
第1回 ～第6回 平成13年開催	第1回 ～第8回 平成13年開催	第1回 ～第10回 平成13年開催	第1回 ～第6回 平成13年開催
第7回 ～第15回 平成14年開催	第9回 ～第20回 平成14年開催	第11回 ～第20回 平成14年開催	第7回 ～第17回 平成14年開催
第16回 H15/1/17 (金)	第21回 H15/1/29 (水)	第21回 H15/7/5 (土)	第18回 H15/7/1 (火)
第17回 H15/1/24 (金)	第22回 H15/5/19 (月)	第22回 H15/8/26 (火)	第19回 H15/9/2 (火)
第18回 H15/2/24 (月)	第23回 H15/6/10 (火)	第23回 H15/10/13 (月)	第20回 H15/10/9 (木)
第19回 H15/3/27 (木)	第24回 H15/7/18 (金)	第24回 H16/8/25 (水)	第21回 H16/9/1 (水)
第20回 H15/4/21 (月)	第25回 H15/8/25 (月)	第25回 H16/9/17 (金)	第22回 H16/10/21 (木)
第21回 H15/5/16 (金)	第26回 H15/9/24 (水)	第26回 H16/10/19 (火)	第23回 H16/11/2 (火)
第22回 H15/6/20 (金)	第27回 H15/10/23 (木)	第27回 H16/11/30 (火)	
	第28回 H16/10/13 (水)		
	第29回 H16/11/8 (月)		
		治水部会	利水部会
第23回 H15/7/12 (土)	環境・利用部会	第1回 H15/3/8 (土)	第1回 H15/3/8 (土)
第24回 H15/9/5 (金)	第1回 H15/3/8 (土)	第2回 H15/3/27 (木)	第2回 H15/3/27 (木)
第25回 H15/9/30 (火)	第2回 H15/3/27 (木)	第3回 H15/4/10 (木)	第3回 H15/4/14 (月)
第26回 H15/10/29 (水)	第3回 H15/4/10 (木)	第4回 H15/4/17 (木)	第4回 H15/9/2 (火)
第27回 H15/12/9 (火)	第4回 H15/4/17 (木)	第5回 H15/5/29 (木)	第5回 H15/10/24 (金)
第28回 H16/2/26 (木)	第5回 H15/5/29 (木)	第6回 H15/8/25 (月)	
第29回 H16/5/8 (土)	第6回 H15/8/25 (月)	第7回 H15/10/15 (水)	
	第7回 H15/10/15 (水)		
	住民参加部会	ダムWG	3ダムサブWG
第30回 H16/6/22 (火)	第1回 H15/2/24 (月)	第1回 H16/7/11 (日)	第1回 H16/8/7 (土)
第31回 H16/7/29 (木)	第2回 H15/3/27 (木)	第2回 H16/7/18 (日)	第2回 H16/9/11 (土)
第32回 H16/8/24 (火)	第3回 H15/4/11 (金)	第3回 H16/7/25 (日)	第3回 H16/11/8 (月)
第33回 H16/9/29 (水)	第4回 H15/4/18 (金)	第4回 H16/8/19 (木)	川上ダムサブWG
第34回 H16/10/25 (月)	第5回 H15/5/27 (火)	第5回 H16/9/23 (木)	第1回 H16/8/3 (火)
第35回 H16/11/16 (火)	第6回 H15/8/28 (木)	第6回 H16/10/4 (月)	第2回 H16/9/3 (金)
	第7回 H15/10/23 (木)	第7回 H16/10/18 (月)	余野川サブWG
		第8回 H16/11/10 (水)	第1回 H16/8/11 (水)
		第9回 H16/12/1 (水)	第2回 H16/9/22 (水)
その他			
設立会	平成13年開催	しっかりしてや!! 流域委員会	H16/2/28 (土)
発足会			
第1回 合同懇談会			
第1回 合同勉強会	平成14年開催	ファシリテーターとの 検討会	H16/5/15 (土)
シンポジウム			
拡大委員会		大戸川、天瀬ダム意見交換	H16/9/26 (日)
提言説明会	H15/1/18 (土)	丹生ダム意見交換会	H16/9/27 (月)

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。
 ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
 ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。（希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。）ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。
ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。
 ※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名（または居住地）とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。
 ※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研（株）



淀川水系流域委員会 猪名川部会ニュース No. 24

2005年1月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本

事務担当：山根

〒542-0042 大阪市中央区今橋 4-2-1 (大阪富士ビル8階)

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E - mail : yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源開発公団 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川課／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木部河川課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。